

令和4年度第三者評価 改善状況報告書

令和5年3月31日

施設名	港区立虎ノ門高齢者在宅サービスセンター（通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区虎ノ門1-21-10	指定管理者	医療法人財団 百葉の会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和5年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和5年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
<p>当事業所では、ボランティア活動団体との連携や地域ネットワークを活用したイベントの企画・運営を積極的に行ってきた。また、施設ボランティアコーディネート協会やプラチナ塾、書道家のグループなどと連携し、心や体の健康増進に繋がる各種イベントも企画実施してきた。特に、コロナ禍においてオンラインイベントを積極的にチャレンジしてきたことは大変な実績として現れてきている。オンラインの活用は大変効果的でありメリットも多いので、今後、新たな団体などが参加できるイベントの企画が望まれる。</p>		<p>コロナ禍以前から交流のあったコーラスグループからは、定期的にDVDが届けられ、センター内の事業で活用した。学生ボランティア（サックス演奏）によるイベントに関しては、リモートにより実施し、交流を継続した。</p>	<p>コロナ禍以前から交流のあるコーラスグループから提供されているDVDを引き続き活用し、ミニレクリエーションを実施する予定。 また、学生ボランティア（サックス演奏）のリモートによるイベントは引き続き企画し、実施する予定。さらに、新規ボランティア団体の参加を視野に入れ、新たなイベントを検討していく。</p>	<p>利用者の満足度向上のために、新たな団体などの受け入れを検討し、イベントのバリエーションを増やせるよう指導していく。</p>
<p>現在、事業所と運営法人を同じくする合計3つの事業所間で、介護相談員等派遣等事業における介護相談員の受け入れについて、鋭意検討が進められている。介護相談員の受け入れについては、近年、新型コロナウイルス感染症の影響下、実施が断念されてきた。しかし、その性質上、第三者の目が入り、サービスのさらなる向上にもつながることが期待されるため、受け入れに向けた検討、準備が進められてきた。事業所では、近い将来、感染対策を万全に講じた上で、最終準備を行い、受け入れを実施する予定であり、その実現が期待される。</p>		<p>介護相談員受け入れの再開に向け、社会福祉協議会の担当者とメールや訪問による手法を用いて、同受け入れを既に再開している施設の取組状況などを確認した。面談の人数や場所、時間等を具体的に協議し、3施設で再開に向けた調整を行った。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染状況に注視しながら、なるべく早期に、介護相談員の受け入れを再開していく予定。</p>	<p>他施設を対象にしたヒアリング内容も反映し、できるだけ早期に、介護相談員を受け入れられるよう指導していく。</p>
<p>リスクマネジメントについても委員会の運営や情報セキュリティ研修などへの積極的な参加など、研修を含めて事業所全体としての取り組みが定着してきている。また、科学的介護情報システム「LIFE」を導入し、月3日間での専門家チームを結集し、心と体の情報収集・一元管理を目指して、大変有意義な取り組みをしている。一方、この情報の活用についてはまだ発展途上にある。チャレンジングな内容ではあるが、事業所の将来を考えて、職員の情報リテラシーの向上とともに、LIFEシステムを有効活用する取り組みの進展が望まれる。</p>		<p>LIFEのフィードバックにおいて、当センターの利用者は、年齢が比較的高く、ちょっとしたきっかけで体重が減少しやすい素地があり、体重の減少や食事の様子を観察していく必要があるとの結果を確認できた。このため、他職種連携による「お達者会」にて話し合い、体重減少が課題の利用者家族へ体重表を渡し、体重の増減に対する意識を高めていただくよう取り組んだ。</p>	<p>LIFEのフィードバックを用いて、全国と当センターの状況を比較し傾向を把握することで、効果的なケアに活かしていく。現況、理学療法士を中心に行っているが、同フィードバックによって得た情報を活用できる職員を増やしていく。 当センターの利用者は、全国平均と比較し、 ① 低栄養に陥る可能性が高いこと。 ② 固いものを避け柔らかいものばかり食べる傾向にあること。 ③ 入歯の使用割合が高いこと。 ④ むせる割合が高いこと。 などの状況が確認できている。 このため、主に次の点に取り組む。 ・介護職等による昼食前の嚥下体操の強化 ・介護職等による食後の口腔ケアへの介入 ・管理栄養士や看護師等の専門職との連携強化</p>	<p>嚥下体操の強化や食後の口腔ケアの導入など、LIFEシステムの結果を踏まえた取組の進展について指導していく。</p>